

しおさい通信

No. 1 6

平成25年8月号

指定就労継続支援B型事業所 しおさい
三崎：銚子市三崎町 3-82 TEL 23-9012
春日：銚子市春日町 2058-1 TEL 25-3475

池袋地区民生委員 来所

7月5日（金）、東京都豊島区の池袋地区民生委員の皆さん31名が、しおさいとのぞみの見学の為、来所されました。

民生委員御一行は三崎に到着後、しおさいの概要と作業内容などを、パンフレットや資料を基にして説明して、施設や法人について理解して頂きました。



▲池袋地区民生委員の皆さん
あったパン類の販売を行いました。皆さんがたくさん購入して下さいだったので、またたく間に売り切れとなり、希望のパンやパウンドケーキを購入

▲パン購入でごったがえしています！出来なかった方がおり、お叱りを受けるというハプニングが発生しました。

この後、しおさい春日とのぞみを見学され、そちらでも布製品などたくさん購入して頂きました。ありがとうございました。



県の実地指導 実施

7月25日（木）、千葉県印旛健康福祉センター（印旛保健所）監査指導課職員2名による「平成25年度介護保険居宅サービス事業者等への実地指導」（監査）が行われました。

今年度、監査対象となったのは、銚子訪問看護ステーションNEW、NEWハウス、そして就労継続支援B型事業所に移行して1年が経過したしおさいの3か所でした。

最初に全体ミーティングを行った後、まず、訪問看護ステーションとグループホームの現地視察が行われました。その後、訪看、しおさい、NEWハウスについて、あらかじめ提出してあった指導調書に沿って、書類の確認や施設運営などについて聞き取りが行われ、法令や制度に則って適正に運営されているかを、細かくチェックして行きました。

初めての監査が行われたしおさいでは、書類の不備や充実、掲示物の整備など7項目の指摘（指導）を受けました。

監査指導課によれば、約1ヶ月後に報告書が送られてくるとのことなので、指摘事項については、真摯に受け止め、順次改善して行きたいと思っております。



▲全体ミーティング



▲監査を受ける田村さん

栗源協働支援センター 見学 ～ 恋する豚研究所 ～

7月4日（木）、職員研修を目的として、香取市にある栗源協働支援センター・株式会社恋する豚研究所の見学に行ってきました。

道の駅くりもとのすぐ西側の豊かな自然に囲まれた場所にある栗源協働支援センターは、社会福祉法人「福祉楽団」が昨年9月に開設した就労継続支援A型事業所（雇用契約を締結し、最低賃金を保障）で、豚肉の精肉化及びハム・ソーセージの製造、レストランの運営などを行っています。

ここで使う豚肉は、同法人の理事長・在田正則さんが東庄町で営んでいる養豚場（有限会社アリタホックサイエンス＜在田農場＞）から仕入れています。食品工場などで余った材料に乳酸菌などを混ぜた独自の発酵飼料を食わせて育てているので、うまみ成分が豊富なのが特長だそうです。

施設は2階建てで、1階が仕入れた豚肉をハムやソーセージなどに加工する工場、2階がレストランと売店になっています。



栗源協働支援センターは、午前9時から午後2時30分までの4時間30分が勤務時間で、現在は、身体障害者1名、知的障害者3名、精神障害者6名の10名（定員25名）が働いているそうで、株式会社恋する豚研究所は、ここで製造した豚肉加工品を販売するために設立した会社とのことです。

到着後、まず昼食を兼ねて2階のレストランで“夏のロース肉サルサソース焼き定食”を頂きました。メイン食材である豚肉は、良い意味での“豚肉臭さ”があり、「豚肉を食べている！！」という満足感を味わうことか出来ました。

食事後、同支援センター施設長で、恋する豚研究所代表取締役である飯田大輔さんと就労担当の山根正敬さんが、施設の概要などを説明してくれました。

▲山根さん（奥）と施設長の飯田さん

この中で飯田さんは、この事業を行うに当たり、福祉作業所を立ち上げるという考えではやっていないということを話されていましたが、同センターは、製品作り、ブランド作りをしっかり行い、事業を立ち上げ、雇用を作って行くという方法で運営されており、どちらかと言えば一般企業の発想で事業が行われているように感じました。それを一番良く物語っているのが製品の販売です。ここで作られているのは、ももハム、ロースハム、ソーセージ、ベーコンですが、このレストランで出される他、ネット販売や都市部の大手スーパーにも出荷しているそうです。しかし、製品に貼るラベルには“福祉作業所”で製造したことは表示していないそうで、この点について飯田さんは“消費者の立場で考え時、ラベルに“福祉”と書かれていると『何で福祉法人がこれを作っている



▲説明を聞くしおさい職員

の？』と思う。そう思われてしまっは“市場”^{しじょう}で他社製品と正当（対等）な競争は出来ないと考えている。その為に、販売を担当する株式会社恋する豚研究所を設立した。肉の品質にはこだわっている、味で勝負している」と述べられました。そして「現在の就労継続A型、B型の作業所で行われている方法を否定する訳ではないし、ここをA型事業所の標準としてとらえないで欲しい」とした上で「“福祉”ももう少し“市場”に近づいて、うまく利用すれば福祉もより良くなって行くのではないかと話していました。

同じA型事業所でも、以前に見学した成田市のビーアンビシャスとは違う考え方で運営が行われており、どのやり方が正しいというのではないようですので、各事業所の実情に合わせた形で最良の方法を実施して行くより他にないのでしょうか。今回の見学を通して、このような運営方法もあることを認識しつつ、より良い事業所となれるように努力して行きたいと思います。

編集後記

夏の花の代表格と言えば「ひまわり」です。漢字では「向日葵」と書きますが、語源は太陽を追って廻ることから「日廻り」と言われていたからだとか。確かにそれがひまわりのイメージです。でも実際は、若い茎や花が咲き始めの頃は太陽に向かって咲きますが、花が良く開いた後は動かなくなり、多くの花は東向きに咲いているとのことです。自然って本当に不思議で面白いですね。